

## 聖霊 来てください

主任司祭 吉池 好高

梅雨入り前のこの季節、田植えを終えたばかりの田圃には早苗が初夏の陽を浴びて、風にそよいでいることでしょう。この季節に祝われる聖霊降臨の祭日は、教会の誕生を祝う祭日でもあります。生まれたばかりの教会の上に吹き渡っていた聖霊の息吹の風が、今のわたしたちの教会の上にもさわやかに吹き抜けているのを感じ取りたいと思います。神の永遠のいのちそのものである聖霊は、わたしたちが生きている今の現実へのこだわりからわたしたちの魂を解き放ちます。

エマオへの道すがら、二人の弟子に近づいて道連れとなったくださった復活の主は、「歩きながらやり取りしているその話は何のことですか」と尋ねられます。二人は暗い顔をして立ち止まったのでした。暗い顔を道連れとなってくだった主に向けて、クレオパという弟子は「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけのご存じなかったのですか」と言います。「どんなことですか」と問い返されて、彼は胸の内にわだかまっていた思いのたけを吐き出します。じっと耳を傾けてそれを聴いてくださっていた主は言われます。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちが言ったことすべてを信じられない者たち…。叱責のことばではありません。弟子たちの心を開くために、聖書全体にわたって、ご自分について書かれていることを主は説明してくださるのです。

道連れになってくださった主に導かれて、わたしたちも聖書を読み直しましょう。そのためにも、時には、わたしたちの信仰の歩みを振り返って、暗い顔で立ち止まることも必要かもしれません。物分かりが悪く、心の鈍い者たちというおことばに打たれる必要があるかもしれません。

聖霊の息吹で新たにされた心で、もう一度、何度も聞いたことのある聖書のことばを心に思い起こす恵みを願いたいと思います。そこにわたしたちのエマオへの道の道しるべがあるのです。復活の主との出会いの道しるべがあるのです。